

ワイヤーグリップシステム × 3D プリンティング
ディスプレイを支える2社の「原点回帰」と「新たな挑戦」



荒川技研工業 × 光伸プランニング「JAPAN SHOP 2025」共同出展のお知らせ
クリエイターに進藤篤氏を迎え、インスタレーションを展開

荒川技研工業株式会社、株式会社光伸プランニングは、2025年3月4日(火)~7日(金)東京ビッグサイトで開催される店舗総合見本市「JAPANSHP 2025」に共同出展いたします。クリエイターに進藤篤氏を迎え、植物由来の樹脂を用いた3Dプリンティング×ワイヤーグリップシステムで構成するインスタレーションをご覧ください。

「EVER ORIGIN (永遠の原点)」をテーマに、力強くも繊細に煌めく「1本の大樹」のインスタレーションを展開し、樹脂本来の美しさとワイヤーグリップシステムの新たな価値創造に挑みます。会場内にそびえる大樹のサイズは直径3m、高さ3.7mに及びます。180枚以上の酢酸セルロース樹脂パーツが樹液のように表面を覆い、それらを600個以上の多様なワイヤーグリップシステムが支えています。

現代の樹脂加工技術である3Dプリンティングが、人工的・作作的に正確な造作が可能であるのに対し、本来の樹脂は有機的で不均質な生命の痕跡を残します。同時にワイヤーグリップシステムとの出会いによって重力から解放された宝石のような軽やかさと輝きがうまれます。本展示では、3Dプリンティング技術における正確さの中に、ときおり現れる予期しない樹脂の動きやズレを取り込みつつ、人工と自然との共鳴を通して、改めて樹脂の原点に立ち返ります。

素材本来の琥珀色の樹脂と、金属の煌めきが織りなす繊細な輝きと神秘的な存在感を放つ「1本の大樹」。重力に身を任せ豊かな造形を与える樹脂と、重力からの解放を与えるワイヤーグリップシステムというディスプレイを支える2社のものづくりが、新たな展開へと歩みを進めることとなるでしょう。

〔展示概要〕

第54回店舗総合見本市「JAPAN SHOP 2025」

荒川技研工業 × 光伸プランニング (JS4301ブース)

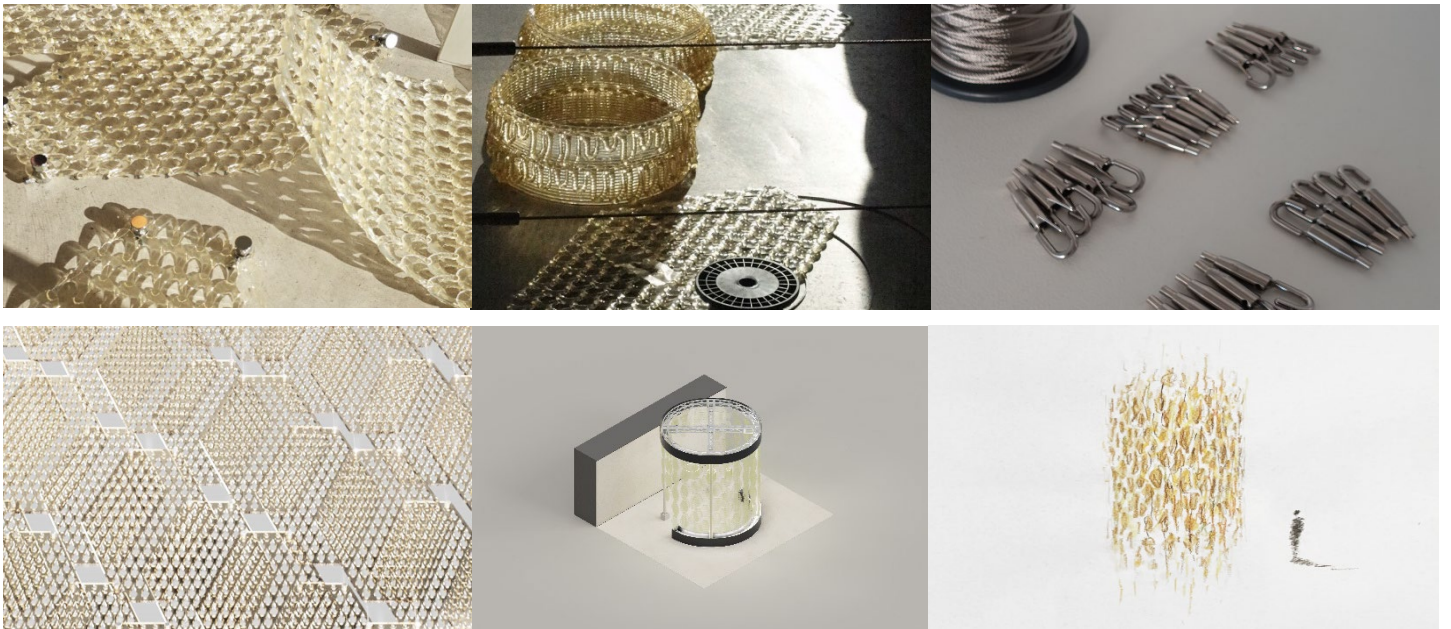
会期 | 2025年3月4日(火)~7日(金)

時間 | 10:00~17:00 ※最終日のみ16:30終了

会場 | 東京ビッグサイト (東京国際展示場) 東展示棟

ブース | 東4ホール JS4301ブース

URL | <https://messe.nikkei.co.jp/js/>



(上段：左) 酢酸セルロース樹脂による 3D プリントパーツ。
 (上段：中央) 酢酸セルロース樹脂の本来の色味の積層により、琥珀色のオブジェクトが創出される。
 (上段：右) 荒川技研工業によるワイヤーグリップシステム
 (下段：左) CG イメージ
 (下段：中央) ブースデザイン CG イメージ
 (下段：右) コンセプトスケッチ(進藤篤)

■共同展示の背景

本展では、互いにさまざまな空間におけるディスプレイを支える 2 社のタッグにより、従来の製品展開にとどまらず、新たな見せ方や活用方法の可能性を探ります。両社のクリエイターとのコラボレーションや新規事業アプローチ、チャレンジ精神に互いに感化され、今回初となる共同出展へ至りました。ディスプレイを支える 2 社による、ものづくりへの新たな展開をお楽しみください。

■クリエイターコメント | 進藤篤

荒川技研工業のワイヤーグリップシステム、そして光伸プランニングによる植物由来の酢酸セルロース樹脂を使用する本展示では、両社のものづくりへの情熱と原点を再確認する機会となりました。自然と人工、そして原始と現代が繋がる深い森の中で、永遠に輝く大樹を探しにいくかのような想像を膨らませました。重力に身を任せ豊かな造形を与える樹脂と、重力からの解放を与えるワイヤーグリップシステムとの出会いにより、大樹の輪郭が浮かび上がり、壮大な輝きを見つけるような体験です。それは「EVER ORIGIN(永遠の原点)」を探す旅とも言えます。

現代の生活で「樹脂」という言葉を聞くと、石油由来プラスチック製品等の工業的で少し堅いイメージが先行します。しかしながら本来の樹脂は、木の表面からとろっと流れ出した樹液が固まったもの。木の温もりや生命の痕跡さえも感じるような、有機的で魅力的な存在。そんな樹脂が固まると、「琥珀」という別の時間軸での価値が見いだされる。今回の展示では、そんな樹脂の原点へと立ち返るとともに、「現代の樹脂」による新たな価値の創出を目的としています。

本展示で使用された 3D プリントパーツの基材である酢酸セルロース樹脂のオブジェクトを初めて目にした時、まさに天然樹脂のような美しい琥珀色に驚きました。本来は様々な調色が可能な素材であるものの、意図的に着色や混合をせず、酢酸セルロース樹脂そのものの色味を活用しています。また、パーツの製作過程では、通常 3D プリンティングの出力時に、造形の正確さを優先し、基材を同量で吐出するところを、あえて吐出口の開閉具合を調整することで、吐出量に幅を設けています。そうする事で生まれる、雫のように膨張する樹脂の表現と「光の溜まり具合」を実現する為、何度も試作が行われました。立体ではなく平面のパーツであっても、豊かな奥行と輝きが実現できているのは、光伸プランニングの技術力と探求心の現れと言えます。

荒川技研工業の製品は、空間の中で清々しい緊張感を与え、時にその存在が消えてしまうほどに空間の中に溶け込んでいく。確かな信頼を寄せられる縁の下の力持ちでありながら、表舞台でも些細な華やかさを魅せてくれます。今回の展示ではパネルを挟み込む金具である「SFK-1S」を中心に多種多様な方法で空間を支えています。ワイヤーグリップシステムによる空間構成は重力との軽やかな遊びを楽しむようなひと時を与えてくれます。



■荒川技研工業コメント

今回で42回目となる JAPAN SHOP 出展。1980年の初出展時、同社が世界で初めて開発したワンタッチで固定・解除ができる金具「アラカワグリップ」で商工中金理事長賞を受賞し、その後もたくさんの方に製品をご覧いただきました。

今回、使用するワイヤーグリップ「SFK-1S」は、パネルを挟み込んで吊すことができる金具です。ワイヤーはパネル背面を通過するため、パネルの意匠を邪魔しません。一般的なパネルホルダーは壁面に固定しますが、アラカワのパネル吊り金具は、上下はもちろん、他の金具やレールとの組み合わせで壁面から離して使用することができます。この利点を生かすことで、クリエイターの新しい提案やエンドユーザーの希望により近づくサイン作りが可能になると考えました。

さらに「SFK-1S」の最大許容荷重は70kg、大型のパネルにも対応しています。基本はパネル吊り金具ですが、挟み込みこむものはパネルに限らず吊すことができ、円形のパーツがさりげないアクセントとして輝きます。より安全に、簡単に、かつ美しくワイヤーで吊すことを、クリエイターのみならずお施主、施工業者さまにもご体験いただけますと幸いです。

「ないものを創る」から始まり、2023年には創業50周年を迎えた荒川技研工業。これからも「ないものを創りたい」デザイナー、アーティスト等クリエイターと共に、新たなチャレンジに臨むことが、新たなアラカワグリップの可能性を見出せると信じています。

■光伸プランニングコメント

今回のインスタレーションの表層部分には、180枚以上の酢酸セルロース樹脂パーツが用いられています。これはフィラメントタイプ（糸状）と異なり、ペレットタイプ（米粒状）で3Dプリンターへ大量充填ができるため、大型造形が得意です。さらに、着色の自由度も高く、さまざまな造形性に優れています。本パーツは植物由来のセルロースに酢酸を混合して得られるバイオマス素材のため、土壌や海中での生分解性が高く、造形後も粉碎工程を経て再度ペレットに戻すことができます。（※バージン材に比べ若干表現の曇りや気泡等のノイズは生じる）

今回の展示では、従来の立体什器ではなく空間演出として活用できる「面材」としての制作に取り組みました。面材といえども、アクリルなどの平面素材とは異なる膨らみや立体感が生まれたアウトプットをしています。3Dプリンティング単体ではなく、荒川技研工業のワイヤーグリップシステムと組み合わせるため、取り付け部分の精度担保・データ作成だけでなく、プリンター側の吐出量（パラメーター）をコントロールすることで、工業的印象を脱した自然な樹脂感のある造形表現に注力しました。

今回の共同出展をきっかけに、ディスプレイ・空間演出方法の一つとして、内装・建築関係、VMD等に携わる方々に3Dプリンティングの新たな表情をご覧いただければ幸いです。

■開催概要

第54回店舗総合見本市「JAPAN SHOP 2025」

荒川技研工業 × 光伸プランニング (JS4301 ブース)

会期 | 2025年3月4日(火)～7日(金)

時間 | 10:00～17:00 (※最終日のみ16:30終了)

会場 | 東京ビッグサイト (東京国際展示場) 東展示棟 (東京都江東区有明3-10-1)

ブース | 東4ホール JS4301ブース

URL | <https://messe.nikkei.co.jp/js/>

主催 | 日本経済新聞社

クリエイター | 進藤篤

協賛 | アイティーエル株式会社

施工 | 株式会社タイワ

照明計画 | 麻田勝正 (GLD)

■荒川技研工業



1973年に創業。創業者であり、工学博士である荒川秀夫氏が「ないものを創る」を理念に会社を立ち上げ、1975年に世界に先駆けてワイヤー金具の調整機構「ARAKAWA GRIP」を開発。その後この技術を核とした用途製品を次々と開発し、製造、販売事業を展開、小さいながらも自社のブランド「ARAKAWA GRIP」を持つ。表参道に本社兼ショールーム「TIERS」を構え、埼玉県の所沢事業所では、設計から製造まで一貫して行っている。国外では「メイドインジャパン」のARAKAWA GRIPとして愛されており、2022年には同社ワイヤーシステムがグッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞。ミラノデザインウィークへ出展するなど、日本のものづくりを世界に発信し続けている。<https://www.arakawagrip.co.jp/>

■光伸プランニング



1981年創業以来、「一人でも多くの『つくりたい』想いをカタチに」を目指し、サイン・ディスプレイ、空間装飾、屋外広告の分野で数多くの制作施工を手掛ける。渋谷区神宮前に「都市型工房」として、大型3Dプリンターをはじめとする様々なデジタルファブリケーション設備を擁し、什器・作品制作のノウハウを活かした、新たなディスプレイツールを提案。また、2020年「Think globally, act locally (地球規模で考え、足元から行動しよう。)」をテーマにシブヤ大学との連携授業を開催、2024年からは様々な分野で活動するクリエイターとのコラボレーションプロジェクト「SOKEI (素形)」をスタート。制作・施工事業のみならず、地域コミュニティとの連携やクリエイターとのリサーチから始まる作品制作等、さまざまな視点から3Dプリンターの造形表現の可能性に向き合う。<https://koshin-p.jp/>

■進藤 篤 | ATSUSHI SHINDO

1991年生まれ。東京藝術大学大学院デザイン専攻課程修了。インテリアデザイナーとしてホテル・オフィス・商業空間等のデザインに携わる。個人プロジェクトでは“空気感(ATMOSPHERE)”をデザインする“をテーマに据え、空間・インテリアオブジェクト・アート作品等、多岐にわたる作品を発表。日常にある物事を捉え直し、素材の新たな可能性と根源的な美を探る。www.atsushishindo.com

[主な受賞歴]

日本空間デザイン賞, エキシビション・プロモーション部門 銅賞/サステナブル空間賞 (2024)

Young Japanese Design Talent, ELLE DECOR JAPAN (2023)

Young Designer Award, Interior Lifestyle (2023)



Photo by Ryohei Maehara

本プレスリリースに関するお問い合わせ先

info@atsushishindo.com

画像等のプレスキットは下記よりダウンロード頂けます。

https://drive.google.com/drive/folders/1u7y8nEs09_5zCKCxeRmHyuqDbQSi1i-6?usp=sharing